

f 歯 科 学 的 観 察

日本大学医学部口腔外科

渡 辺 文 夫

昭和55年10月28日と昭和57年1月26日との模型を比較し、次の結果を得た。

1. 齶蝕罹患状態

6才時の乳歯齶蝕罹患率は97.8%、1人平均齶蝕歯数は9.0本であるが、5つ子では、齶蝕はなく口腔衛生状態は非常によく、この事は、永久歯との交換がスムーズに行く可能性が大である。

2. 永久歯の萌出

第3子のみが乳歯列で Hellman 分類ではⅡAに相当し、他の4子は、 $\overline{\text{TTTT}}$ が萌出し、Hellman 分類ⅡCに相当した。下顎前歯の萌出が第1大臼歯の萌出に先んじているが、平均的発育である。

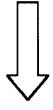
3. 模型計測

歯列弓幅径は、下顎の発育が著明であり上顎の歯列弓幅径に追いついてきている。歯列長径、高径は、混合歯列期に入っている為、正確な計測点が取れないので、明確な事は云えないが、全身の発育と相対していると思われる。

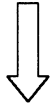
Terminal Plane においては、殆んど Vertical type で変化はないが、第3子のみが、Meoial step type である。

Developmental Space, Primate space では、皆有隙型で、将来 Angle Class I となる可能性が大である。

以上より、顎の発育は良好である。これからが長期にわたる乳歯群と永久歯群との交換する、重大で、大変興味をそそる時期である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. う蝕罹患状態

6才時の乳歯う蝕罹患率は97.8%,1人平均う歯数は9.0本であるが,5つ子では,う蝕はなく口腔衛生状態は非常によく,この事は,永久歯との交換がスムーズに行く可能性が大である

。